

## 対策案整理シート

## 情報提供・普及啓発：情報提供内容の統一・情報提供経路の統一・地域の関心

対 策 案	対 策 の 目 的	実 施 時 の 課 題	既 に 実 施 し て い る 対 策 の 内 容 等	緊 急 性	実 現 性
登山者に対する情報提供(現地)					
登山の頻度が高い地域関係者のバトロール員腕章の携行					
バトロールの常駐					
登山口での電光掲示板等による通行止めの通知					
登山者に対する情報提供等(移動中・登山前の宿泊施設等)					
登山者の装備・レベルの自己判断を促すチェックリストの導入		全ての宿泊施設で実施してもらえるかどうか			
利尻島に向かうフェリー内での情報提供(掲示板、テレビ)		フェリー会社の協力を得られるかどうか			
利尻島に向かうフェリー内での案内・解説					
登山者に対する情報提供(出発前)					
覚えやすいキャッチフレーズづくり					
具体的な事故事例の公表					
地域住民の現状認識・関心の向上					
自然崩壊に対する地域の認識の形成	地域在住者の現状認識向上、長期的視点の形成				
広報紙を利用した地域住民に対する情報提供					
地域の学校登山における山の保全活動の導入		関係者の入念な準備・調整が必要			
地域の学校における利尻山に関する授業の導入					
情報共有					
バトロール員等の情報交換会・報告会の実施					
外国人対応					
情報の多言語化		外国人利用率・内容についての調査が不足			
ピクトグラムの活用					

## 連携強化

対 策 案	対 策 の 目 的	実 施 時 の 課 題	既 に 実 施 し て い る 対 策 の 内 容 等	緊 急 性	実 現 性
利尻山登山道等維持管理連絡協議会の体制強化					
利尻山の管理を担う組織の設立・専門化					

## データの蓄積・モニタリング

対 策 案	対 策 の 目 的	実 施 時 の 課 題	既 に 実 施 し て い る 対 策 の 内 容 等	緊 急 性	実 現 性
情報公開					
「年報利尻山」の発行(基礎統計データ、会議内容・記録、山のできごとの記録・活動日報、関連文献等)					
調査研究資料の閲覧システムの構築					
会議等での議論の可視化(インターネットの活用等)					
登山者ニーズ把握のためのモニター調査の実施					
目安箱の設置(登山口・宿泊施設 等)					
パトロール員による簡易な定点観測の実施	植生復元策検討のためのデータ収集・蓄積	収集データの分析が必要			
地元の中高生の調査協力		関係者の入念な準備・調整が必要			

## 利用コントロール

対 策 案	対 策 の 目 的	実 施 時 の 課 題	既 に 実 施 し て い る 対 策 の 内 容 等	緊 急 性	実 現 性
保護を優先する箇所と適正な利用を優先する箇所のゾーニングの設定	登山道侵食の実態把握、将来実施される様々な対策の根拠となるデータの	基準・根拠となるデータの継続的な蓄積が必要 利害関係者との意見調整・合意形成が必要 利用箇所における利用のあり方の検討が必要	登山道侵食量調査(H20～)、一部植生調査を継続中		
ルートの付け替え		必要な調査を実施し、対策を選択する判断基準となるデータの収集が必要			
登山制限を実施する基準の設定		基準・根拠となるデータの継続的な蓄積が必要			
利用禁止・休止区間の設定		基準づくりが必要 宿泊施設、運輸機関への経済的影響、反発の懸念			
利用休止期間・時期の設定(植生回復目的、融雪期等)		利害関係者との意見調整・合意形成が必要 特定時期への登山者の集中を招く可能性			
天候条件による基準の設定		利害関係者との意見調整・合意形成が必要			
入山者数の上限の設定(統計情報に基づく、利用過大時期のみの1日当たり入山数上限設定)		利害関係者との意見調整・合意形成が必要			
登山前のレクチャーの実施					
レクチャー受講の義務化					
登山の事前予約制の導入					
ガイド同行の義務化					
ツアー登山時の配慮					
平日のツアー実施による登山者集中の緩和	安全管理、適切な利用の誘導、利尻山における対策のPR、関係機関との連携強化、適格なガイド・旅行会社の育成		「ツアー登山の配慮事項」(H19～H20)を発行、主要旅行会社・団体・学校等に送付		
ツアー時のパーティサイズの小人数化(引率人数の上限設定)					
ソフトでの間接的利用コントロール					
混雑日予想カレンダー					
ソフトでの間接的利用コントロール手法の研究・実験					

## 人材の確保・育成、費用の確保、環境保全活動の産業化

対 策 案	対 策 の 目 的	実 施 時 の 課 題	既 に 実 施 し て い る 対 策 の 内 容 等	緊 急 性	実 現 性
島外からの人材確保					
ボランティアの募集		ボランティアの負担(旅費等)が大きく、宿泊施設等の支援が必要 活動成果の検証とPRを継続的に行うことが必要 活動を企画・マネジメントするしくみ/人/組織及び受け皿となる施設が必要 通常イメージされるボランティア活動・地域活動で実施できるレベルの作業内容ではない			
登山ガイドの協力等による登山道維持補修に関するイベントの実施		ボランティアの負担(旅費等)が大きく、宿泊施設等の支援が必要			
自然環境をテーマに扱っている学校等の受け入れ		学校側のメリットの考慮			
ボランティアに対する地域関係者(宿泊施設、フェリー会社等)の支援					
民間企業のCSRとの連携		地域としての方針を明確にしておくことが必要 企業が「利尻山の環境保全」をテーマに選択する動機付け(地域の戦略)が必要			
地域での人材確保・育成					
地域の学校登山における山の保全活動の導入		関係者の入念な準備・調整が必要			
地域の学校における利尻山に関する授業の導入					
観光ハイシーズン後の登山道維持補修作業の実施					
費用の確保					
協力金・入山料の徴収(登山者の負担)		徴収方法について整理が必要			
入島税の徴収		利尻山だけでなく、利尻島全体の環境対策にも利用することが前提			
民間企業のCSRとの連携		地域としての方針を明確にしておくことが必要 企業が「利尻山の環境保全」をテーマに選択する動機付け(地域の戦略)が必要			
募金・基金の設立(利尻山ファンクラブ)		運営主体について整理が必要			
物販(利尻山オリジナルグッズの販売:男性用小用トイレポトル、記念バッジ、手拭いなど)		運営主体について整理が必要			
環境保全活動の産業化					

## ハード対策

対 策 案	対 策 の 目 的	実 施 時 の 課 題	既 に 実 施 し て い る 対 策 の 内 容 等	緊 急 性	実 現 性
関係機関との連携					
環境省直轄事業への提案、助言・相談		土木、植生復元についての技術・知識を有する人材の不足			
ハード対策の実施					
維持補修・植生復元作業の指導的役割		人材、人件費、資材費の不足			
ハード対策の評価					
整備・維持補修への評価・モニタリング					
人材育成					
維持補修作業の指導者育成					
各種ソフト対策との連動					
山の自然環境・崩壊状況の変化についての報告・連絡等を通じた順応的なソフト対策実現のための連携					
現場での登山者に対する作業者自身による解説					
各種調査への協力、調査機器の設置、荷物の運搬					
情報公開					
ハード対策についての情報公開・広報					
ハードでの間接的利用コントロール					
視線誘導など登山者心理に着目した見えざる利用者コントロール手法の研究と実験					